

先 - 3
17. 9. 12

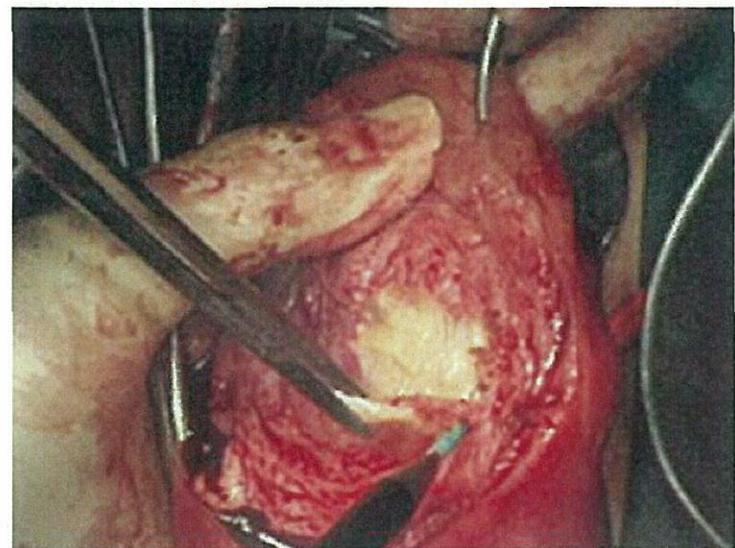
先進医療の届出状況について(7月受付分)

整理番号	先進医療名	適応症	先進医療費用 (自己負担)	特定療養費 (保険給付)	技術の 概要	受付日
1	子宮腺筋症核出術	子宮腺筋症	18万6千円 (1回)	39万5千円 (入院16日間)	別紙1	
2	盲腸ポート造設術(2医療機関)	難治性便秘症及び難治性便失禁	15万9千円 (1回)	26万6千円 (入院12日間)	別紙2	平成17年 7月15日
		神経障害に起因する高度の排便機能障害	17万8千円 (1回)	24万9千円 (入院11日間)		
3	凍結保存同種組織を用いた外科治療	心臓血管疾患等	171万9千円 (心臓弁、大動脈1回)	386万9千円 (入院57日間)	別紙3	平成17年 7月15日
			114万9千円 (静脈1回)	500万2千円 (入院40日間)		
4	PPH法による直腸粘膜脱及び内痔核手術 (2医療機関)	直腸粘膜脱、内痔核、不完全直腸脱	5万5千円 (1回)	8万8千円 (通院1日間)	別紙4	
		直腸粘膜脱、内痔核、不完全直腸脱	5万5千円 (1回)	16万4千円 (入院3日間)		

先進医療の内容（概要）					
先進医療の名称	子宮腺筋症核出術				
適応症					
子宮腺筋症					
内容					
<p>(先進性)</p> <p>従来、子宮腺筋症の治療法は子宮摘出しか方法がなかったが、腺筋症部分を核出することにより、子宮を温存して治療することが可能となった。</p>					
<p>(概要)</p> <p>子宮腺筋症とは、正常な状態では子宮の内側を覆っている子宮内膜が、子宮筋層内に異所性に発生し、強い月経痛を生ずる疾患である。これまで子宮全摘術によって治療されてきたが、近年の女性の晩婚化によって、子宮を温存する治療法が求められるようになった。</p> <p>腺筋症組織は、子宮筋層の中に複雑に入り込んでいることから、従来、腺筋症組織のみを正常の子宮筋層と分離して切除することは困難であった。</p> <p>本技術は、開腹後に、新たに開発されたリング型の高周波切除器を用いることにより腺筋症組織のみを切除（核出）するものである。</p>					
<p>(効果)</p> <p>子宮を温存したまま、子宮腺筋症を治療し、月経痛を著明に軽減することができる。</p>					
<p>(費用)</p> <table> <tr> <td>先進医療に係る費用（自己負担）</td><td>18万6千円（1回）</td></tr> <tr> <td>特定療養費（保険給付分）</td><td>39万5千円（入院16日間）</td></tr> </table>		先進医療に係る費用（自己負担）	18万6千円（1回）	特定療養費（保険給付分）	39万5千円（入院16日間）
先進医療に係る費用（自己負担）	18万6千円（1回）				
特定療養費（保険給付分）	39万5千円（入院16日間）				

備考 この用紙は、日本工業規格A列4番とすること。医療機関名は記入しないこと。

子宮腺筋症核出術

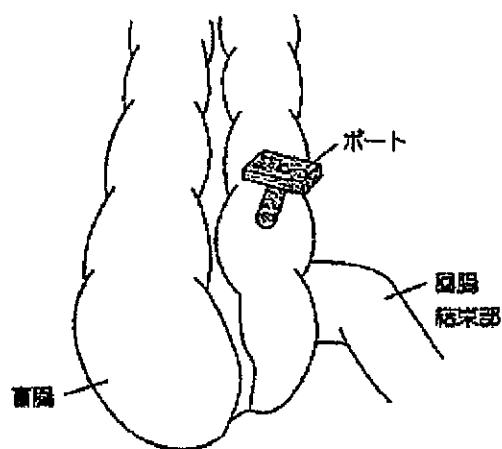


腺筋症組織切除の様子

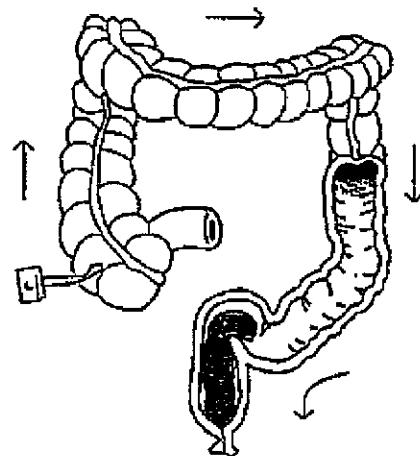
先進医療の内容（概要）	
先進医療の名称	盲腸ポート造設術
適応症 神経障害に起因する高度の排便機能障害	
内容	
(先進性) 盲腸ポートを用いて排便を促すことにより、浣腸、下剤等の従来の方法では対応できなかつた高度の排便機能障害を改善することが可能となる。	
(概要・効果) 脊髄損傷等の神経障害では、高度の便秘を生じ、浣腸、下剤等の従来の治療では改善することは困難であった。 盲腸ポート造設術は開腹を行い、ボタン型胃瘻カテーテルを盲腸に留置する手術であり、浣腸液を注入することにより、排便を促すものである。 従来の治療法では対応が困難であった高度の排便機能障害を短時間でかつ低侵襲に改善することにより、患者の生活の質（QOL）を向上させることができる。	
(費用) 先進医療に係る費用（自己負担） 17万8千円（1回） 特定療養費（保険給付分） 24万9千円（入院11日間）	

備考 この用紙は、日本工業規格A列4番とすること。医療機関名は記入しないこと。

盲腸ポート造設術



盲腸ポート造設の模式図



順行性浣腸の模式図